

2017年11月15日
九州旅客鉄道株式会社

2018年3月期第2四半期決算説明会 主なQ&A

Q 鉄道旅客運輸収入の通期予想を据え置いているが、九州北部豪雨と台風18号の影響があると見ているのか。

A 第2四半期（累計）の実績は、熊本地震の反動等で前年を上回っているが、7月から9月においては、災害に伴う久大本線、日豊本線等の不通や昨年のおつこう割の反動等の影響を受けている。下期については、こうした不通の影響等を見込んで鉄道旅客運輸収入の通期予想を据え置いている。

Q 日田彦山線の復旧費70億円は、設備投資と特別損失のどちらになるか現時点で分からないため、引き当てていないのか。

A 日田彦山線については当社の負担のみでの復旧は厳しいため、関係自治体等と相談しながら、今後の進め方を検討していきたい。また、鉄道施設の復旧については、行政が実施する復旧事業との関連もありうるため、行政と連携をとりながら対応していきたいと考えている。このような事情もあり、現時点では合理的な見積もりが難しいため、日田彦山線については計上していない。

Q 今回の通期予想には、キャタピラー九州の業績がどれほど織り込まれているのか。

A キャタピラー九州については、第3四半期末にバランスシートに取り込み、第4四半期から「その他セグメント」として業績に反映される予定である。同セグメントの営業収益70億円増（対前回予想）の殆どがキャタピラー九州取得によるものである。

Q 配当と特別損失の考え方について、前期、今期とも災害に伴う特別損失を計上した後の当期純利益に対して、配当性向30%程度という考え方をされているが、今後、特別損失を除いた利益で配当を実施するという考えはあるか。

A 九州は他地域に比べて災害が多く発生し、当社の業績に影響を与えることも少なくない。災害による影響を除いて配当を実施することは考えていない。

以上